

SDGsを学ぶマイプロジェクトの授業設計

田中 洋一・前田 博子・澤崎 敏文・橋本 洋子・内山 秀樹

(2022年3月24日受理)

Designing MyProject for Learning about SDGs

Yoichi TANAKA・Hiroko MAEDA・Toshifumi SAWAZAKI・

Yoko HASHIMOTO・Hideki UCHIYAMA

要旨：生活情報デザイン専攻におけるSDGsを学ぶマイプロジェクトの授業設計およびICTを活用した授業運営について報告する。

Key words：マイプロジェクト SDGs Instructional Design

1. はじめに

仁愛女子短期大学（以下、本学と記す）では、生活科学学科に設置していた生活情報専攻と生活デザイン専攻を融合し、2021年4月に生活情報デザイン専攻（以下、本専攻と記す）を新設した。本専攻独自の専門科目は、情報技術科目、マネジメント技法科目、デザイン表現科目、総合科目という4分野があり、総合科目はキャリア系と問題解決系の2系統である。この問題解決系とは、1年前期にデザイン思考を学ぶ必修科目「情報デザイン総論」、1年後期に全員が履修する選択科目「マイプロジェクト」、2年通年の選択科目「専門演習」と必修科目「卒業研究」の4科目から成る。「マイプロジェクト」は、他大学での基礎ゼミに相当し、研究の方法を学ぶ科目である。本稿では、本専攻における「マイプロジェクト」の授業設計やICTを活用した授業運営について報告する。

2. 生活情報専攻田中ゼミにおけるマイプロジェクト

2-1. マイプロジェクトとは

2015年10月に、本学開学50周年記念特別企画の1つとして、生活科学学科企画シンポジウム「地域が育む女子のチカラ～福井型地方創生にむけて～」を開催した。本シンポジウムの基調講演にて、

認定NPO法人カタリバ代表理事の今村久美氏が語ったことの1つが高校生版マイプロジェクトである。この活動は、「全国高校生マイプロジェクトアワード」¹⁾として、全国に拡大して継続されている。筆者は、先のシンポジウム後、マイプロジェクトの要素をゼミ活動に取り入れていたが、2019年度から生活情報専攻の「専門演習」前期へ本格的に導入した。田中ゼミでは、卒業研究は2～4名のチームで取り組むが、マイプロジェクトは1名で実施する。特に、2020年度前期は、COVID-19感染対策として、すべての科目をオンライン授業としたため、前期はマイプロジェクト、後期は卒業研究と切り分けて、活動した。

今村氏が語ったマイプロジェクトとは、社会企業論を専門とする慶應義塾大学SFC井上英之研究室が開発したプロジェクト学習の手法である。須子(2014)は、マイプロジェクトに関して、以下のよう

に述べている²⁾。
マイプロジェクトは学習者個々人が「自分事」のプロジェクトを立案し、その実行を通して、学習者個々人の成長をチームで相互支援するものだ。ここでいう「自分事」とは自分自身の問題意識や原体験に基づいて自発的に取り組

むことができることがらのことを示す。マイプロジェクトは学習者にソーシャルアントレプレナーシップの育成やチームビルディング、リーダーシップの育成、学習や生活の目的設定を促進する効果などを与えるに加え、チームを「学習する組織」に成長させる効果がある。

マイプロジェクト実施の流れは、以下の通りである。特に、「自分事」のプロジェクトの立案のために問いを与え合うことや、プロジェクトの実施過程における気づきを深めるために相互レビューは重要な構成要素である(須子 2014)。

1. ワークシートに基づいてマイプロジェクトを立案する。
2. 学習者同士でマイプロジェクトのワークシートを共有する。
3. 学習者間でワークシートの内容(自分ヒストリーやプロジェクト概要等)をプレゼンテーションしあい、切磋琢磨のための関係性を構築する。また、相互のコーチングを通してプロジェクトの内容を深める。

4. 各自がプロジェクトの第一歩を実施する。
5. 一週間毎にそれぞれの進捗を持ち寄り、相互レビュー・相互コーチングを行う。
6. 学期の最終時点で、最終発表を行う。

実施の流れの3番目にある、自分ヒストリーのプレゼンテーションには「マイプロシート Me編(図1)」、プロジェクト概要のプレゼンテーションには「マイプロシート Project編(図2)」を用いる。マイプロシート Project編には、左下にマイプロの背景(きっかけ)と、右下にマイプロの目的(誰が、どうなるのか?)を書く欄がある。マイプロの背景欄には、Me編の自分ヒストリーから「やりたい!」と思った理由を記述するが、NVC³⁾のように自分の感情から自分のニーズ(大切にしていること)を探ることが大切だと考える。また、マイプロの目的欄では、どんな人が「笑顔になる」「幸せになる」という言葉からユーザーを設定し、どんな「うれしいこと」という言葉から目的(明らかにしたいこと等)を考えさせる点が大変参考になった。

Figure 1 shows a form titled 'マイプロ ME 編'. It has a header with '名前(ニックネームやその由来もぜひ)', '学科:', '番号:', and '20 / / () 作成 ()'. Below the header are four main sections: '似顔絵(or 絵写真)', 'みんなが知らない自己紹介(自由に書いてください)', '自分ヒストリー' (with a vertical label '昔↓自分ヒストリー↓今'), and '人生の波グラフ'. There is also a 'キャッチコピー' field and a '今日のみんなに一言' button.

図1：マイプロシート Me編(須子2014)

Figure 2 shows a form titled 'マイプロ Project 編'. It has a header with '名前(ニックネームやその由来もぜひ)', '学科:', '番号:', and '20 / / () 作成 ()'. Below the header is a large text area for 'あなたのマイプロジェクトを一言で!' and 'あなたのマイプロジェクトの概要を説明してね'. At the bottom, there are two reflection questions: 'このマイプロジェクトを「やりたい!」と思った、あなたの理由や背景を教えてください。(できれば、ME編のどの体験から来ているか考えて、書いてみよう!)' and 'マイプロジェクトが進むことによって、どんな人が笑顔になりますか?幸せになりますか?'.

図2：マイプロシート Project編(須子2014)

2-2. 田中ゼミにおけるマイプロジェクト

2020年度前期「専門演習」田中ゼミのマイプロジェクトで活用した学習支援システムは、オープンソースLMS(学習管理システム)の仁短Moodle、オンライン会議アプリzoom、グループチャットアプリslackである。前期は、毎回zoomを用いたリアルタイム配信(同期型オンライン)授業として実施したが、全員が参加してグループワークを行う回と、一人ずつと対話する回を設けた。

【授業内容】

- 1回目：興味関心マップの共有(全員)
手書きで作成した興味関心マップをスマートフォンで撮影し、仁短Moodle課題へ提出した写真を共有して説明&質疑応答。
- 2回目：サーベイの共有(全員)
仁短Moodleフォーラムへ、調べたWebサイト

(内容紹介) 10サイト分を投稿。

- 3回目：マイプロ研究計画の作成（全員）
仁短Moodleフォーラム「マイプロの研究計画」へ、マイプロのタイトル、背景、目的（明らかにしたい問い）、方法、参考文献を投稿。
- 4回目～7回目：マイプロの研究報告（1人ずつ）
授業までに提出した仁短Moodleフォーラム「マイプロの研究報告」の投稿順でslackへメッセージを送り、zoomへ1人ずつ入室して、現在のマイプロ計画と実践に関して質問や助言を行う。
- 8回目：マイプロの中間発表会（全員）
授業までに提出した仁短Moodle課題「マイプロ中間発表スライド」を共有して、1名5分の発表及び質疑応答を実施。
- 9回目～12回目：マイプロの研究報告（1人ずつ）
授業までに提出した仁短Moodleフォーラム「マイプロの研究報告」の投稿順でslackへメッセージを送り、zoomへ1人ずつ入室して、現在のマイプロ計画と実践に関して質問や助言を行う。

13回目からは、卒研のチーム決め等を並行して実施し、14回目までにマイプロ報告書をGoogleドライブへ提出。

毎回、授業終了後、仁短Moodle課題「振り返りノート」を記述。振り返りノートの内容は、下記のとおりである。

- ① 経験「やってみよう！」
今回の授業&課題で経験したことのうち、印象に残っているのは何ですか？
なるべく具体的に書きましょう。
- ② 振り返り「どうだった？」
先の経験から自分が気づいたことや分かったことは何ですか？
- ③ マイセオリー「次はこうしよう！」
先の振り返りをふまえて、今後、他の場面でも活用できるようなマイセオリー（仮説や教訓）

は何ですか？

- ④ チャレンジ「試してみよう！」
今回の振り返りシートには書かなくていいですが、先のマイセオリーを実際に試してみよう！

2020年度に田中ゼミで実施されたマイプロジェクトのタイトルは下記のとおりである。

【2020年度マイプロジェクト】

- 二度と見たくない映画について
- ファングッズ：手作りか購入どちらがお得か
- 洋服をリメイク
- 糖質オフ料理で楽しく食事を
- 涙活：泣ける映画・動画紹介
- 洋画ホラー映画の種類の違いについて
- ダイエットは食事の改善から
- マッサージで痩せるのか？
- お母さんに教えてもらった料理を作れるようになる
- 韓国料理から美容効果を得ることは可能なのか
- 料理初心者向け定番料理5選
- 料理苦手女子の節約料理記録
- メイクで人は変わるのか？
- どうして私は漫画にハマるのか？
- 綺麗な肌を保つ方法

3. 生活情報デザイン専攻「マイプロジェクト」の授業設計

3-1. 「マイプロジェクト」のシラバス

2021年度から本専攻1年後期に開講した「マイプロジェクト」（以下、本授業と記す）の担当教員は、本稿の著者である田中(教育工学)、澤崎(ビジネス)、前田(ファッションデザイン)、内山(環境デザイン)、橋本(プロダクトデザイン)の5名であり、研究分野も多様である。

本授業の目的は、身の回りのモノコトへの興味関心から課題を発見し、「実践を学ぶ」ことを学ぶことである。そのためプロジェクト活動を通して、課題の見つけ方、調査方法、発表方法を学ぶ。

本授業の到達目標は、下記のとおりである。

- ① 自分の興味・関心からプロジェクトテーマを見つけられる。
- ② プロジェクトテーマに合った研究方法を選ぶことができる。
- ③ 傾聴し、自らの考えを伝えられる。
- ④ 主体的に行動することができる。
- ⑤ 多様な文化や考えを理解できる。
- ⑥ 他者と協力できる。

2021年度の本授業履修者は106名のため、4回目に仁短Moodleを用いた「担当教員の希望調査（第1希望～第3希望の回答）」を実施し、5回目からは約20名5チームに分かれて活動した。また、基本的に面接（対面）授業だが、15回目のみオンデマンド授業とした。コロナ禍の半導体不足によって、本学の全学的なWi-Fi環境構築が遅れたため、BYODノートパソコン及びGoogle Jamboardを用いる予定だった1・2回目は、紙と付箋を用いたグループワークに変更した。3回目の文献調査法は、附属図書館司書に説明してもらい、図書館の利用促進も図った。

【授業内容】

- 1回目：SDGsを自分ごと化する（全体）
- 2回目：自分の興味・関心を可視化する（全体）
- 3回目：文献調査法&担当教員の興味関心紹介（全体）
- 4回目：アンケート調査法&担当教員調査（全体）
- 5回目：担当教員のチームでのガイダンス（全体→チーム別）
- 6回目：プロジェクトテーマ探し（チーム別）
- 7回目：プロジェクトテーマの決定（チーム別）
- 8回目：マイプロの目的を決めよう（チーム別）
- 9回目：先行研究の調査（チーム別）
- 10回目：データの収集（チーム別）
- 11回目：データの分析（チーム別）
- 12回目：データの考察（チーム別）
- 13回目：発表スライドの制作（チーム別）
- 14回目：発表動画の制作（チーム別）
- 15回目：振り返り（全体オンデマンド）

本授業の成績は、担当教員5名で相談し、下記7つで評価することにした。基本的に、提出先は仁短Moodleの本授業コースである。2・3回目に対面で回収したワークシートは、スキャナーで取り込んだ後、シート自体は学生へ返却し、PDFファイルをMoodle上で共有した。

【評価方法】

- 振り返りノート30点（2点×15回）
- SDGs自分ごと化ワークシート5点
- 興味関心シート5点
- マイプロ進捗報告10点
- 発表動画30点
- 動画へのコメント付け10点
- 相互評価&自己評価10点

3-2. SDGs自分ごと化ワーク&興味関心シート

本授業の1回目は、「マイプロシート Me編（図1）」を用いた自分ヒストリーに関するワークの代わりに、「未来の学びと持続可能な開発・発展研究会（みがかくSD研）」⁴⁾の村山史世氏と石井雅章氏が2019年2月25日に仁愛大学にて実施した「仁愛兼済×SDGs～『これまで』の取り組みを『これから』につなげるために～」ワークショップに基づく「SDGs自分ごと化ワーク」を実施した（図3）。本ワークは、①自分のライフヒストリーを振り返る、②2030年の自分を想像する、③2030年の自分とSDGsの結びつきを考える、という流れで個人ワークとグループワークを繰り返す。

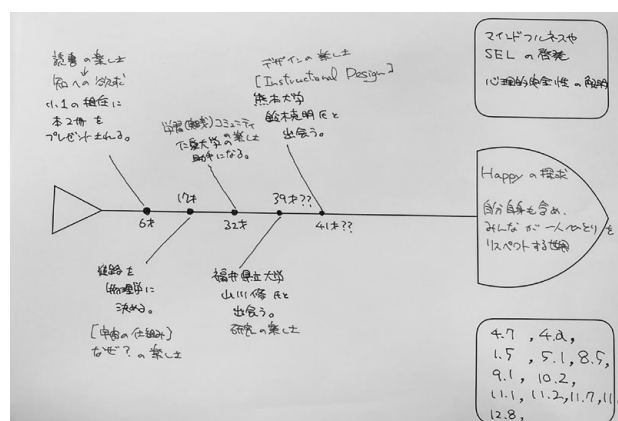


図3：SDGs自分ごと化ワークシート（筆者の例）

本授業の2回目は、SDGs自分ごと化ワークを振り

返った上、A3用紙に付箋を貼り、SDGsに基づく自分の興味・関心を可視化した。しかし、SDGsの自分ごと化が不十分であり、自分の興味・関心からのテーマ抽出が難しかったように思える。

マイプロジェクトのプロセスとしては、①Will「自分が興味・関心を持っていること、好きなこと」、②Need「社会や地域の課題、ほかの誰かにとって必要のあること（本授業ではSDGs）」、③Can「自分にも解決できること」、④Action「Will、Need、Canを満たす、実現したい未来に向けた実践を行うこと」となっている。マイプロジェクトの場合、Willが最も重要なのだが、Needに縛られすぎると、真のActionにならない。

3-3. チーム田中の授業方法

チーム田中における5～14回目の授業方法は、下記のとおりである。

5回目は、A3用紙に付箋紙を貼り、SDGsを無視した「自分の興味関心」を可視化した上、22名全員で車座になり自己紹介&質問を行った。そして、翌週までの宿題として、「マイプロの芽（自分の興味関心から何かを明らかにしよう！何かを実践しよう！等）」を3つ以上、仁短Moodleのフォーラムに記述させた。

6回目は、持参したBYODノートパソコン及びスマートフォンを用いて、slack「マイプロ2021チームたなかえる」にログインさせ、全員が自己紹介を投稿。全員の前で一人ずつ、1番実践したい「マイプロの芽」を発表してもらい、筆者が質問やアドバイスをを行った。翌週までに「マイプロの芽」に関して調べたことをslackのダイレクトメッセージで田中宛に書き込む。

7回目～14回目までは、毎回メンバーが変わるように7グループを指定して着席させ、グループごとに、アイスブレイク後、1週間で調べたことをノートパソコンで提示しながら説明し、質疑応答。他者からの問いやアドバイスはもちろんのこと、他のメンバーが実践しているマイプロジェクトの方法等が大変参考になったようである。各グループでの質疑応答が終了した後は、個人ワークを行うが、その際

に筆者が質問やアドバイスをした。毎回の宿題は、翌週までに調べたことや作成したスライド等をslackのダイレクトメッセージで田中宛に送ることである。

3-4. 本授業における発表

本授業は、1チームでも約20名、全員では106名のため、発表動画を限定公開し、視聴し合った。学生が一人ひとり行う、発表の流れは下記のとおりである。

- ① 5分程度の発表のため、PowerPoint及び原稿を作成。
- ② PowerPointに音声を挿入し、MP4の動画を作成。
- ③ YouTubeへ動画を限定公開設定でアップロード。
- ④ YouTubeのリンクを仁短Moodleの発表動画公開フォーラムに投稿。
- ⑤ 提出締切後、1週間以内に、少なくとも10名分（学籍番号の後ろ5名分は必須）の発表動画を視聴し、コメントを書き込む。

下記にチーム田中22名の発表タイトルを掲載する。学生が好きなタイトルを付けているため、似通っているものもあるが、マイプロジェクト自体は個性が発揮されていて興味深い発表ばかりである。たとえば、スマートウォッチによる睡眠の計測、スーパーおつとめ品を用いた料理の観点評価、実践前後における心理尺度分析、ペットに関するアンケート調査、豆腐づくり、依存症やフェアトレードの紹介、ハンゲルWebサイトの紹介。

【チーム田中の発表タイトル】

- 睡眠の質を高める習慣
- 食品ロスを減らしてみよう！
- ダイエット食について
- 映画やドラマ、動画を見て差別を少なくし、そういう方々が住みやすい世界へ
- 運動の重要性
- 豆腐について
- ダイエットお弁当の効果
- チョコレートの秘密
- もっと知ろう！ペット爬虫類！

- ヘルプマークを知ろう！
- 睡眠と色の関係について
- ダイエットレシピ紹介
- K-POP好きのためのSDGs入門
- アニメ（漫画）×SDGs
- 食品ロスをなくそう
- 映画で泣いてストレス解消
- お風呂の効果
- 食事と健康
- 香りの効果
- LGBTQと映画
- お母さんの味
- ハリネズミについて

4. おわりに

本科目15回終了後の授業評価アンケートにおける質問4つに対する平均（標準偏差）は下記のとおりである（4件法，有効回答数61名）。「①あなたは、この授業に対して意欲的に取り組んだ」3.8（0.45）、「②この授業において、教員の指示は適切だった」3.8（0.46）、「③全体的に、この授業の内容は理解できた」3.7（0.45）、「④総合的に判断すると、良い授業だった」3.8（0.47）。すべての項目において、低い値ではなかったため、1年目としては授業設計も上手く行ったと考えている。ただし、今年度の授業1～2回目において、Will起点からNeedを自分ごと化できにくかったことが反省であり、来年度は下記3点の修正を実施する予定である。①1回目に興味関心マップを作成した後、前期科目「キャリアプランニング」で作成したライフデザイン・ポートフォリオ（図4）を振り返る。②2回目に、SDGs自分ごと化ワークシートの作成。③4回目に、「マイプロシート Project編」の作成。また、授業開始前に、担当教員全員で対話をして、授業方法やマインドセットに関する最低限の統一を図るべきだと感じた。

本科目15回目の振り返りノートをいくつか紹介する。

① 経験「やってみよう！」

- みんなの発表を見て、個性的な物がたくさんあって面白いなと思いました。SDGsに関連した発表はほんとに難しいと感じて

いましたが、自分の好きなものからSDGsにうまく関連させている人が多いなと感じました。

② 振り返り「どうだった？」

- 自分の興味関心のある事柄だと調べるのが楽しく、また、今後も知っておくといいような新しい知識を身に着けることができるのでよかった。グループでの話し合いでは毎回違うメンバーだったため、コミュニケーション能力が必要で大変だった。しかし、質問をもらったり調べ方やまとめ方を知れたりすることで、自分ひとりでやっていては気づけなかった新しい発見があった。
- 興味が湧くタイトルを考えることも大切だと感じました。初め動画を見る前は、絶対にタイトルも見てから開くので、タイトルはとても重要な部分だと気づきました。また、皆の動画を見て、グラフや表、写真があるとより分かりやすく、想像が付きやすいと感じました。
- 人によってテーマが全く違うことから、人がいるぶだけ考え方があったことがわかりました。その人の研究成果に至るまでの過程もその人の特徴が表れて面白いと思いました。

③ マイセオリー「次はこうしよう！」

- 自分の抱える問題は何だろうと紙に書き出してみよう！そして、問題を解決するため何をすべきかまた紙に書き出してみよう！何事も言語化が大事！
- 私の発表動画へのコメントを見ると、私が頑張ったところが評価されていたので、次回制作する際は、自分が反省した点を改善しつつ、褒められた点を活用しようと思いました。

振り返りノートを読むと、各チームでの活動を通して、WillからActionに繋がり、研究の楽しさを理解できていることがわかる。また、相互レビューの大切さを再認識できた。

今後、振り返りノートの質的分析を進めると

